

# 首都圏直下型地震の減災対策について

倉田まなぶ議員の一般質問から

今回は、3月羽村市議会で倉田まなぶ議員がおこなった一般質問のうち、首都圏直下型地震の減災対策についての内容をお伝えします。



地震と津波による被害で約2万人の死者と行方不明者を出した東日本大震災から1年が経過しました。

今後も首都圏直下型地震や東海・東南海・南海の3連動地震といった大規模地震の発生が予想されています。

3月議会では3・11から1年が経過した今、改めて危機意識を持って対策を強化していくべきと考え一般質問で取り上げました。

## 地域防災計画見直し前に減災対策の着手を

倉田 地域防災計画の見直し以前に、首都圏直下型地震発生の可能性をふまえて対策に着手すべきではないか？

市長 企業との連携による帰宅困難者対策や遠隔地の防災協定締結団体との応援体制など、計画の改定を待たずに実施できる対策は、前倒して実施していく。



### 倉田コメント

羽村市の災害対策の基本計画である「地域防災計画」の改定は、国や東京都の見直しに合わせて、平成25年度に最終的な改訂版が策定される予定です。いつ起こってもおかしくない巨大地震への対策は早急におこなうべきです。

## 防災備蓄倉庫の内容の拡充を

倉田 スマートフォン・携帯電話対応ソーラー充電器を追加してはどうか？

災害時用救助工具セットを各町内会に補助金で設置するよう呼び掛けるべきではないか？

マスク、消毒液、ラップなど感染症予防用に追加すべきではないか？

防災備蓄倉庫にソーラー発電の照明を設置してはどうか？

投げて消すタイプの消火器を追加してはどうか？

市長 発電機を活用した携帯電話用充電器を配備することにしており、ソーラー充電器についても手動式充電器も含め備蓄を検討している。

各町内会では、この制度を利用し組織の実情に合わせ、既に災害時用のさまざまな資機材を整備している。

新型インフルエンザ対策として備蓄しており、災害時にも活用していく。ラップはコンビニとの協定を進めるなかで、追加を検討する。

今後、携帯ソーラー発電ランタンなどを配備していく考えである。

備蓄物資として消火器を備蓄することは考えていない。

## 木造以外の住宅にも耐震助成の実施を

倉田 非木造の戸建て住宅・共同住宅・特定建築物を対象として耐震助成を実施すべきではないか？

市長 24年度からは「東京都における特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化を推進する条例」に基づき、診断・設計及び改修の補助制度の実施を予定している。

災害時に倒壊・周囲への延焼の恐れの高い木造戸建て住宅へ優先的に実施しており、今後の市内の耐震化の進捗状況や、国や東京都の動向などを注視していく。

< 裏面へ続く >



4月1日 西多摩衛生組合への震災がれき搬入に関する説明会に参加。賛否両論さまざまな意見が出された。私は受け入れはやむを得ないとの考えだが、不安・疑問の声にしっかり応えることは必要だ。(鈴木)

4月10日 玉川上水沿い・羽村堰周辺で開催された「さくらまつり」に参加。桜が咲きほころ中大勢の方で賑わっていた。都合が合わず、山車や神輿、八雲神社の神輿の川渡りなどは見ることができなかったことが残念だった。(倉田)

## 倉田コメント

羽村市では、市内に在る住宅のうち、昭和 56年 5月 31日以前に軸組工法により建築された 2階建て以下の一戸建て木造住宅（延べ床面積の 2分の 1以上を住宅に供しているもので、賃貸を目的とする住宅を除く）の「耐震診断」および「耐震改修」を行う場合、費用の一部を補助する制度を実施しています。

予定されている助成制度ですが、特定緊急輸送道路沿道の建築物は 6 棟しかなく、そのうち補助対象となるのは 5 棟のみです。倒壊した際の被害の大きさを考えると木造以外の住宅も広く耐震化が必要であり助成制度の拡充が必要です。

## 災害時に孤立化が懸念される 清流町の減災対策を

自然にあふれて美しく静かで住みやすい清流町ですが、袋小路となっており、災害時に孤立化してしまう恐れもあるため、住民からは、独特の立地条件にあわせた減災対策を望む声があがっています。

### 清流町に防災備蓄倉庫が設置されます

現在おこなわれている防災行政無線の増設・改修工事が終了後、今年度中に清流町に防災備蓄倉庫が設置されます。内容については、水防訓練にあわせた資機材が入るなど水防に特化したものになる予定で、住民や専門家と話し合い検討されます。

### 清流町にこそ衛星電話の配備を！

地震などの大災害が発生すると、通常の電話回線は多くの通話が殺到してかかりにくくなるほか、電話回線が損傷

すると通話そのものが不可能になります。

その点、衛星電話は地上設備が比較的少なく設備損傷のリスクが少ないと考えられます。

現在、市内の学校等の避難所となる場所 10カ所に衛星電話が配備されています。孤立化が懸念される清流町への衛生電話の配備は必須であるため、早急に配備する事を求めました。防災備蓄倉庫と同時期に衛星電話の配備が検討されています。

## 聞き取りにくい防災行政無線 放送の解消を

防災行政無線の放送の内容が聞き取りにくいと、いざという時に困るので、なんとかしてほしいとの要望が多数寄せられました。特に東日本大震災の計画停電時に内容が確認できず、改善を求める要望が殺到しました。

### 防災行政無線の増設・改修工事が進んでいます

現在防災行政無線は、12カ所の増設、3カ所の移設工事が進んでいます。またスピーカーや音量など改修工事も進んでおり、工事は4月末には完了する予定です。

### 10月から電話音声案内サービスがはじまります

昨年の6月議会・一般質問で、防災行政無線で放送した内容を電話で確認するための音声案内テレホンサービスの実施について質問しました。

今年の10月より、電話をかけると、録音された防災行政無線の放送内容が自動的に再生される電話音声案内サー

ビスが実施されることになりました。

## 倉田コメント

この他に、公共施設等に窓ガラスの飛散防止フィルムを設置する事、市民向け学習会の実施などを求めました。市民の方と話していると首都圏直下型地震について「いつかは来るだろう」「心配だから対策だけはしっかりやってほしい」などの意見が多く、大規模な地震に対しての備えや対策を徹底しておこない、災害時に少しでも被害を小さくできるように取り組んでいかなければと感じます。ご意見やご要望がありましたら、お気軽にお寄せ下さい。



今回の無料法律相談は5月8日(火)午後1時半からです。電話でお申し込みください。

・鈴木 080-1058-9450 ・倉田 080-3460-0064まで。